



ごあいさつ



春分の候 市民の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、2月20日から始まりました2月通常会議においては、これまでの4年間に推進してきたリーディングプロジェクトの成果を皆様に実感していただくとともに、物価高から市民の暮らしや事業活動を守るといった新たな視点を加えて編成された過去最大規模となる令和6年度当初予算をはじめ、計72件の議案が提出されました。また、懸案となっております必要な耐震性能を有していない市庁舎の整備につきましては、皇子山総合運動公園への建て替えを前提に検討を進められることが市長から表明されました。能登半島地震を見ましても、市民生活の復旧・復興には迅速な対策・支援が必要であり、災害拠点の重要性が全国的にも再認識されたところであります。これまで市議会では公共施設対策特別委員会等において庁舎整備の方向性については議論してまいりましたが、湖誠会としてもこれまで以上に、議論を深めて参りたいと考えております。



前列右より

川口 正徳議員

竹内 照夫議員

竹内 基二議員

寺田 英幸議員

後列右より

草野 聖地議員

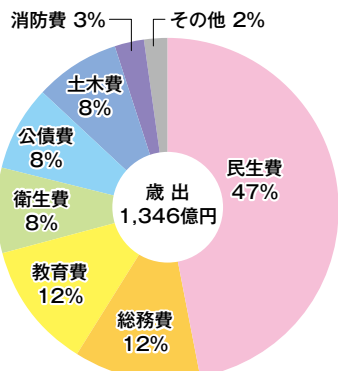
青山三四郎議員

葉月 陽 議員

幹事長
竹内 照夫

今後とも湖誠会は、夢があふれるまち大津の創造を目指して、市民の皆様とともに歩んでまいります。

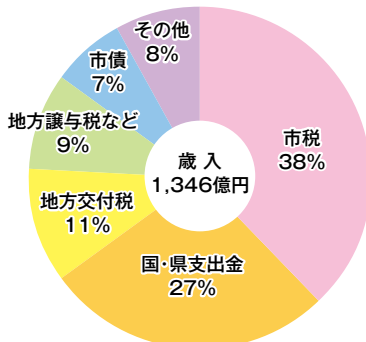
一般会計歳出予算額(目的別)



歳出解説

- 令和7年度に予定する第79回国民スポーツ大会・第24回障害者スポーツ大会の開催経費の増加と基幹業務システムの統一化・標準化の対応経費を見込む。
- 公共施設の維持管理の継続や増加する扶助費など、非常に困難な財政運営が想定される。

一般会計歳入予算額



歳入解説

- (市税の主な内容)
 - 個人市民税は定額減税、法人市民税は原材料の価格高騰や賃上げ等による収益減少の見直しを反映してそれぞれ減収見込み。一方で固定資産税は新築建物の増加、事業者の整備投資の回復見直しを反映して増収見込みであるが、市税全体として令和5年度当初比で、2.6%の減収見込み。
 - 市税収入や地方交付税など各収入は堅調に推移すると見込まれる。

令和6(2024)年度各会計予算額

一般会計	(5.6%)	1,345億6,500万円
特別会計(8会計)	(2.9%)	766億8,897万7千円
企業会計(3会計)	(6.0%)	354億7,986万2千円
合計	(4.8%)	2,467億3,383万9千円

※ 企業会計の予算額は、収益的支出と資本的支出の合計(全体)

令和6年度予算が決まりました

令和6年度当初予算が市議会2月通常会議において可決されました。令和6年度当初予算は、大津市総合計画第2期実行計画の最終年度であることから、これまでの4年間に推進してきたリーディングプロジェクトに基づく計画の成果を市民の皆様にご実感いただくことを大きな目的としつつ、影響が続く足元の物価高から市民の「暮らしや事業活動を守る」という新たな視点が加えられ編成されました。また、コロナ禍を経て顕在化することとなった新たな課題(出生数の減少、心身の健康リスクの高まり、地域コミュニティの希薄化など)に対する積極的かつ多様な取組により「夢があふれるまち大津」の実現に向けた各種施策の推進経費を盛り込んだ予算として編成されたものです。

主な事業内容

- 「夢があふれるまち大津」を実現する予算として、大津市総合計画第2期実行計画の仕上げに「暮らしを守る」視点をプラス、
- 《新しい視点 暮らしを守る(新規)》
 - 介護保険料基準額の1割引引き下げ……………介護給付費準備基金約37億円活用
 - 子育て支援プロジェクト(新規)……………3億2,708万円
 - 妊婦健康診査無料化・産婦健康診査助成……………1億6,552万円
 - 高校生世代への医療費助成制度の拡充……………
 - 暮らし安心プロジェクト(新規)……………
 - 学校体育館空調設備設置……………令和6年度 4億1,653万円
 - 高齢者運転免許証自主返納促進事業(交通安全基金)……………6,000万円
 - 《学びの環境づくりプロジェクト》……………
 - 企業版夢づくりプロジェクト(中学生対象のオープンキャンパス)……………699万円
 - 中学校ウイングの増設と校内教育支援ルーム「校内ウイング」整備……………797万円
 - 《健康長寿プロジェクト(新規)》……………
 - 大石淀グラウンドゴルフ場の開設……………2,521万円
 - 《魅力発信とにぎわいづくりプロジェクト(新規)》……………
 - 大津湖岸なぎさ公園(サンシャインビーチエリア)の再整備……………1億8,974万円
 - 創業促進と市内中小企業小規模事業者支援……………新規3つの補助金総額3,400万円
 - 移住・定住PR事業と定住促進リフォーム補助金の充実……………1,057万円
 - 《その他の主な事業》……………
 - 広報おつデジタル版の運用と市ホームページのリニューアル……………7,349万円(広報おつ)、682万円(ホームページ)
 - 公共施設包括管理業務の導入……………32億7,248万円(令和6年~7年)

市民一人当たりの予算額391,514円はこんなふうに使われます

民生費 47%	183,092円
総務費 12%	48,763円
教育費 12%	48,158円
衛生費 8%	31,073円
公債費 8%	29,875円
土木費 8%	29,827円
消防費 3%	12,005円
その他 2%	8,721円

※金額は一般会計の歳出額を令和6年2月1日現在の人口343,704人で割り戻した額
※表中の%は歳出全体に占める割合

これからも市の財政に注目してね!

市議会 2月通常会議



会派代表質問

湖誠会 竹内 照夫 幹事長

質問項目

- 市長の基本姿勢について
- 令和6年度の当初予算編成について
- 大規模災害への対応と基盤強化について
- 子ども・子育て施策の推進について
- 地域公共交通の維持確保に向けた取組について

Q 佐藤市長の2期目スタートを迎え、今後の更なる情報発信に向けてどのように取り組まれるのか、見解を伺う。

A 広報おおつは、本年5月1日号から、より読みやすく、関心を持ってもらえるようにリニューアルし、新たにデジタル版を導入することで利便性を高めるほか、市ホームページも、市政情報の集約サイトとしてリニューアルを検討しており、引き続き、情報を的確に届けられるよう、取り組んでいく。また、タウンミーティングなど、市の施策として検討していく。

Q 令和6年度の当初予算編成において、高齢者をはじめ、市民の暮らしを守る視点で英断された今回の介護保険料の引き下げにより、どのような効果を想定されている

のか、見解を伺う。

A 年金が主な収入である高齢者は、急激な物価上昇の影響を大きく受けると考えられることから、今回の改定の時期をとらえ、介護保険料を引き下げることで経済的な負担の軽減を図る。

今後高齢化の進展に伴い、介護サービス利用者の増加が見込まれ保険料の上昇が想定されることから、運営状況を十分に見極める必要があり、引き続き持続可能な制度運営に努めていく。

Q 前任期4年間における子ども・子育て施策の評価と、今後の展望を伺う。

A 子ども・若者支援計画で実施した215の事業について、令和2年度から、9

割以上の事業が「拡充」「維持・推進」という結果となり、着実に推進できたと評価している。

一方で、出生数の減少、子育て支援に対するニーズの多様化、子育てに不安や負担感を持ちながら社会の中で孤立してしまうことや、ヤングケアラーへの対応、多子世帯への支援の強化など、これまで以上にきめ細かく取り組む必要があると考える。次期計画においては、新たに子どもや若者などの意見を反映することで実効性のあるものとなるよう取り組むとともに、施策を着実に進捗していくことで、より「子育てにやさしいまち」となるよう、子ども・子育て施策を推進していく。



竹内 照夫 幹事長・代表質問

2月通常会議一般質問

質問、答弁は一部抜粋です。詳しくは大津市議会ホームページをご覧ください。*質問順に掲載しています。



青山 三四郎 議員

インバウンドを中心とした観光戦略について

Q 日本への外国人観光客を本市に誘客するにあたっては、大津ならではの価値を感じて頂くことも重要であることから、例えば「琵琶湖の活用」や「京都との繋がり」も大きなPRの視点であると考えますが、見解は。

A インバウンド関連の商談会などでPRするとともに、令和6年度はコロナ禍も継続して実施してきた台湾市場に加え、香港市場での誘客促進に取り組んでいく。とりわけ、すでに商品化している琵琶湖疏水船は、この度の大津港への航路延伸もあわせて琵琶湖と京都との繋がりという本市の強みを生かした観光コンテンツの1つであると考えており、今後も大津の魅力を最大限に生かした付加価値の高い観光商品の造成に市内事業者とともに取り組んでいく。 *他に3項目の質問あり。



川口 正徳 議員

孤独・孤立対策について

Q コロナ禍を経て、生活環境の変化や経済的な困窮により孤独感を高めている人への支援状況は。

A 生活困窮者自立相談支援機関である社会福祉協議会の継続的な支援につながらない方や自らSOSを発することが困難な方に対し、アウトリーチ等の充実による自立相談支援機能強化事業として電話やメール、訪問などのアプローチを行っている。

また、重層的支援としては令和5年度に新設した重層的支援推進室にて試行的に進めており、すこやか相談所や障害福祉課などの窓口へ寄せられた相談のうち、複雑化・複合化した課題を抱えるものは重層的支援推進室で必要な関係機関を調整するとともに、役割を明確にした上で支援し、定期的に評価する取り組みも行っている。 *他に1項目の質問あり。



葉月 陽 議員

大津市の病児保育事業について

Q 病児保育は病気の子どもを看てもらえる人がいない保護者にはなくてはならないサービスである。現在の利用状況、市民ニーズに対する見解、実施にあたっての課題、また今後の展望を伺う。

A 平成30年度は年間利用者数が2,303人であったものが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は916人まで大きく落ち込む一方で、令和4年度は1,675人となっている。

市民ニーズとしては、季節性インフルエンザの流行などにより、利用しにくい状況があり、また、定期利用ではないため職員配置が難しく、事業の採算面では課題があると認識している。

今後は、まずは北部地域での事業実施に向けた取組を進めていくとともに、持続可能な事業のあり方を検討していく。 *他に2項目の質問あり。



寺田 英幸 議員

学校での掃除活動から得られる「学び」について

Q 学校での掃除活動は、責任をもってやり遂げることの尊さや、友達と協力する大切さを学ぶ貴重な機会と考えるが、各校での特徴的な取り組みと、掃除活動が人格形成にどのような意義を有しているかの見解は。

A 美化委員が中心となり啓発ポスター作成や全校で取り組む掃除イベントを企画したり、「額に汗して黙々と掃除をします」という校訓の学校では、静かな雰囲気の中で心を落ち着けて掃除に取り組む姿が見られる。また、保護者や地域と連携し、公園や湖岸を清掃するなど特色ある取り組みを行う学校もある。日々の清掃活動を通じ、役割や責任を自覚することにつながるとともに、褒められ、認められる経験により自己肯定感が高まり、豊かな心を育めると考える。 *他に2項目の質問あり。

